



平成28年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年9月9日 東

上場会社名 株式会社東京楽天地 上場取引所
 コード番号 8842 URL <http://www.rakutenchi.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 山田啓三
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 岡村 一 (TEL) 03(3631)5195
 四半期報告書提出予定日 平成27年9月11日 配当支払開始予定日 平成27年10月16日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年1月期第2四半期の連結業績 (平成27年2月1日～平成27年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年1月期第2四半期	4,486	△2.3	783	1.8	866	9.3	530	11.0
27年1月期第2四半期	4,591	△0.6	770	14.4	792	0.8	478	39.9

(注) 包括利益 28年1月期第2四半期 869百万円(4.4%) 27年1月期第2四半期 832百万円(40.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年1月期第2四半期	8.87	—
27年1月期第2四半期	7.99	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年1月期第2四半期	35,555	28,122	79.1	470.01
27年1月期	35,239	27,434	77.9	458.48

(参考) 自己資本 28年1月期第2四半期 28,122百万円 27年1月期 27,434百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年1月期	—	3.00	—	3.00	6.00
28年1月期	—	3.00	—	—	—
28年1月期(予想)	—	—	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年1月期の連結業績予想 (平成27年2月1日～平成28年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,350	2.3	950	△35.3	1,050	△32.3	700	△28.2	11.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、 除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年1月期2Q	65,112,187株	27年1月期	65,112,187株
28年1月期2Q	5,277,150株	27年1月期	5,274,835株
28年1月期2Q	59,835,910株	27年1月期2Q	59,842,315株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表の四半期レビューは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀の金融緩和政策を背景に、企業収益や雇用情勢は改善傾向にあり、景気は緩やかな回復基調となりました。しかしながら、物価上昇の影響により、消費マインドの回復に弱さが見られるなど、先行きは不透明な状態が続きました。

このような状況下にあって、売上高は4,486百万円と前年同四半期に比べ104百万円(2.3%)の減収となり、営業利益は783百万円と前年同四半期に比べ13百万円(1.8%)の増益、経常利益は866百万円と前年同四半期に比べ73百万円(9.3%)の増益、四半期純利益は530百万円と前年同四半期に比べ52百万円(11.0%)の増益となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

(不動産賃貸関連事業)

不動産賃貸事業では、既存テナントに対してはきめ細かな対応を行うとともに、退店スペースに対しても積極的なリーシング活動を実施し、売上高は前年同四半期並みとなりました。

ビルメンテナンス事業では、意欲的な営業活動に努め、墨田区内の大型案件や官公庁案件を落札したことなどから、前年同四半期を上回りました。

以上の結果、不動産賃貸関連事業の売上高は2,539百万円と前年同四半期に比べ6百万円(0.3%)の増収、セグメント利益は1,244百万円と前年同四半期に比べ43百万円(3.6%)の増益となりました。

(娯楽サービス関連事業)

映画興行事業では、「シンデレラ」「名探偵コナン 業火の向日葵」「ラブライブ! The School Idol Movie」等の作品が好稼働しましたが、「アナと雪の女王」が記録的大ヒットとなった前年同四半期には及びませんでした。

温浴事業では、「天然温泉 楽天地スパ」および「楽天地天然温泉 法典の湯」は身近なレジャーとして引き続きお客様の支持をいただき、各種イベントを積極的に実施したこともあり、前年同四半期を上回りました。

フットサル事業では、「楽天地フットサルコート 錦糸町」および「楽天地フットサルコート 調布」ともに昨年の降雪の影響がなくなりましたが、錦糸町地区においては近隣競合店の存在感が高まってきたことなどもあり、前年同四半期を下回りました。

以上の結果、娯楽サービス関連事業の売上高は1,476百万円と前年同四半期に比べ40百万円(2.7%)の減収、セグメント利益は125百万円と前年同四半期に比べ3百万円(2.5%)の増益となりました。

(飲食その他事業)

飲食事業では、ドトールコーヒー系フランチャイズ店は、既存店の売上高が前年割れとなり、本年1月に「エクセル シオールカフェ船橋駅南口店」を閉店したこともあり、前年同四半期を下回りました。

その他の事業では、宝くじ販売におきましては、全国的に販売枚数の減少傾向が続いていることを受け、前年同四半期を下回りました。

以上の結果、飲食その他事業の売上高は470百万円と前年同四半期に比べ69百万円(12.9%)の減収、セグメント利益は32百万円と前年同四半期に比べ14百万円(30.9%)の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は35,555百万円と前連結会計年度末に比べ316百万円の増加となりました。これは主として、浅草事業場の建築工事代金の支払いにより現金及び預金が減少したこと、同工事代金を建設仮勘定に計上したこと、有形固定資産の減価償却がすすんだこと、および株価の上昇により投資有価証券が増加したことによるものであります。

② 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は7,432百万円と前連結会計年度末に比べ372百万円の減少となりました。これは主として、税金の支払いにより未払法人税等およびその他の流動負債(未払消費税)が減少したこと、建設協力金の償還により受入保証金が減少したことによるものであります。

③ 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は28,122百万円と前連結会計年度末に比べ688百万円の増加となりました。これは主として、四半期純利益を計上したこと、その他有価証券評価差額金が増加したこと、および配当金を支払ったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

(通期の見通し)

不動産賃貸関連事業は、主力の楽天地ビルやその他の各ビルは引き続き順調に稼働し、ビルメンテナンス事業でも積極的な営業活動を展開して前年を上回る受注を確保する見込みです。なお、本年12月17日に開業予定の「東京楽天地浅草ビル」(東京都台東区)につきましては、キーテナントとしてホテルおよび遊技場の入居が決まっております、商業フロアにつきましても魅力的な施設づくりに向けて出店テナントと準備を進めているところですが、当期の賃貸収入計上は12月分からとなること、不動産取得税負担が発生することなどから、収益への本格的な寄与は次期(29年1月期)からとなる見込みであります。以上により、セグメント全体の売上高は前期を上回り、セグメント利益は前期を下回る見込みであります。

娯楽サービス関連事業は、映画興行事業におきましては、「ジュラシック・ワールド」をはじめとした夏休み興行が好調だったこと、上映中の「テッド2」、12月公開の「スター・ウォーズ/フォースの覚醒」などの期待作品があることから、売上高は前期を上回る見込みであります。また、温浴事業は前期を上回り、フットサル事業は前期並みとなる見込みであります。以上により、セグメント全体では売上高、セグメント利益とも前期を上回る見込みであります。

飲食その他事業は、本年1月に「エクセルシオールカフェ船橋駅南口店」を閉店し、10月からは建物の耐震工事のため「ドトールコーヒーシャポー本八幡店」が約1年間の休業に入ることもあり、売上高、セグメント利益とも前期を下回る見込みであります。なお、東京楽天地浅草ビルに入居予定の商業施設「まるごとにつぼん」につきましては、当期の収益に与える影響はわずかであります。

以上により、通期の連結業績予想は、売上高9,350百万円(前期比2.3%増)、営業利益950百万円(前期比35.3%減)、経常利益1,050百万円(前期比32.3%減)、当期純利益700百万円(前期比28.2%減)を見込んでおります。なお、各利益の前期比で減益率が大きくなってはおりますが、これは主として「東京楽天地浅草ビル」および「まるごとにつぼん」に係る宣伝費等の開業費用を見込んでいることによるものであります。

(28年1月期 報告セグメントごとの通期業績予想)

1 外部顧客への売上高

	不動産賃貸関連事業	娯楽サービス関連事業	飲食その他事業
通期予想(百万円)	5,236	3,059	1,055
前期実績(百万円)	5,067	2,995	1,078
対前期増減率(%)	3.3	2.1	△2.2

2 セグメント利益

	不動産賃貸関連事業	娯楽サービス関連事業	飲食その他事業
通期予想(百万円)	2,207	262	55
前期実績(百万円)	2,372	238	92
対前期増減率(%)	△7.0	9.8	△40.1

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,437,396	655,442
売掛金	227,797	231,599
有価証券	100,000	100,000
その他	200,168	240,475
貸倒引当金	△160	△51
流動資産合計	1,965,201	1,227,466
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,216,599	14,775,460
土地	5,653,575	5,653,575
建設仮勘定	5,504,469	6,519,372
その他(純額)	207,209	212,733
有形固定資産合計	26,581,853	27,161,140
無形固定資産	302,407	318,392
投資その他の資産		
投資有価証券	5,686,113	6,162,099
その他	703,791	686,361
投資その他の資産合計	6,389,904	6,848,461
固定資産合計	33,274,165	34,327,994
資産合計	35,239,366	35,555,461

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	322,888	334,957
未払法人税等	419,384	334,739
賞与引当金	43,849	44,045
その他	1,558,555	1,286,734
流動負債合計	2,344,676	2,000,475
固定負債		
役員退職慰労引当金	84,415	94,413
退職給付に係る負債	589,243	567,475
資産除去債務	513,949	524,210
受入保証金	3,807,598	3,724,883
その他	465,355	521,124
固定負債合計	5,460,560	5,432,106
負債合計	7,805,237	7,432,582
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,046,035	3,046,035
資本剰余金	3,378,537	3,378,537
利益剰余金	21,658,953	22,010,063
自己株式	△1,981,213	△1,982,362
株主資本合計	26,102,312	26,452,274
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,331,817	1,670,605
その他の包括利益累計額合計	1,331,817	1,670,605
純資産合計	27,434,129	28,122,879
負債純資産合計	35,239,366	35,555,461

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年2月1日 至平成27年7月31日)
売上高	4,591,036	4,486,946
売上原価	3,242,319	3,099,737
売上総利益	1,348,716	1,387,208
一般管理費	578,683	603,391
営業利益	770,033	783,817
営業外収益		
受取利息	681	320
受取配当金	22,227	29,393
持分法による投資利益	32,838	79,108
投資有価証券売却益	13,292	—
その他	7,738	6,834
営業外収益合計	76,779	115,656
営業外費用		
支払利息	26,152	21,391
固定資産除却損	14,984	7,864
その他	12,893	3,465
営業外費用合計	54,030	32,721
経常利益	792,781	866,751
税金等調整前四半期純利益	792,781	866,751
法人税等	314,755	336,129
少数株主損益調整前四半期純利益	478,025	530,622
四半期純利益	478,025	530,622

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年2月1日 至平成27年7月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	478,025	530,622
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	354,858	338,787
その他の包括利益合計	354,858	338,787
四半期包括利益	832,884	869,410
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	832,884	869,410
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年2月1日至平成26年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注2)
	不動産賃貸 関連事業 (千円)	娯楽サービス 関連事業 (千円)	飲食その他 事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	2,533,141	1,517,431	540,463	4,591,036	—	4,591,036
セグメント間の内部 売上高または振替高	218,317	1,044	356	219,719	△219,719	—
計	2,751,458	1,518,476	540,820	4,810,755	△219,719	4,591,036
セグメント利益	1,201,574	122,045	46,485	1,370,105	△600,071	770,033

(注) 1. セグメント利益の調整額△600,071千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△578,683千円、セグメント間取引消去△21,388千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成27年2月1日至平成27年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注2)
	不動産賃貸 関連事業 (千円)	娯楽サービス 関連事業 (千円)	飲食その他 事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	2,539,600	1,476,558	470,786	4,486,946	—	4,486,946
セグメント間の内部 売上高または振替高	195,713	990	368	197,072	△197,072	—
計	2,735,314	1,477,549	471,155	4,684,018	△197,072	4,486,946
セグメント利益	1,244,653	125,096	32,114	1,401,864	△618,047	783,817

(注) 1. セグメント利益の調整額△618,047千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△603,391千円、セグメント間取引消去△14,655千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

重要な設備投資

当社は平成27年9月9日開催の取締役会において、進行中の浅草再開発事業に関して、下記のとおり設備投資額の増額を決議いたしました。

1. 設備投資の目的および金額

建設中の「東京楽天地浅草ビル」につきましては、従来総投資予定額を10,000百万円としてまいりましたが、昨今の建設資材の高騰などを受け、投資額を3,000百万円増額するものであります。この結果、新たな総投資予定額は13,000百万円となります。

2. 開業時期 平成27年12月17日(予定)

3. その他

建設工事費の支払いは、これまで自己資金を充当してまいりましたが、竣工時に支払う金額の不足分につきましては、金融機関からの借入れによる調達を予定いたしております。